

雌阿寒岳

1 概 況

雌阿寒岳で2006年2月18日00時頃から振幅の小さな火山性地震が増加しています。地震は18日をピークに徐々に減少していますが、依然やや多い状態が続いています。また、振幅の小さな火山性微動も観測されています。このように、雌阿寒岳の火山活動はやや活発な状況となっています。火口近傍では注意が必要です。

なお、19日、北海道の協力により実施した上空からのヘリコプターによる観測では、噴煙の様子や火口周辺に特に変化は認められず、地殻変動にも特に変化はみられていません。今後、火山活動が活発化した場合は、火山情報等でお知らせします。

2 地震・微動活動の状況

2006年2月18日00時ころから体に感じない振幅の小さな火山性地震が増加しています。地震の日回数は、18日516回、19日351回、20日午前11時まで44回で、18日をピークに徐々に減少していますが、依然やや多い状態が続いています（図1）。1日当たりの回数としては、1973年の観測開始以来最も多い回数となっています（これまでの最大は1995年11月1日の300回）。地震の震源はポンマチネシリ火口の浅部と推定されます。

18日09時09分頃と09時27分頃、及び19日01時03分頃と06時50分頃には継続時間約1分、20日05時49分には継続時間約17分の振幅の小さな火山性微動が観測されました。微動発生時の噴煙の状況に変化はありませんでした。雌阿寒岳で火山性微動が観測されたのは2003年1月1日以来のことです。

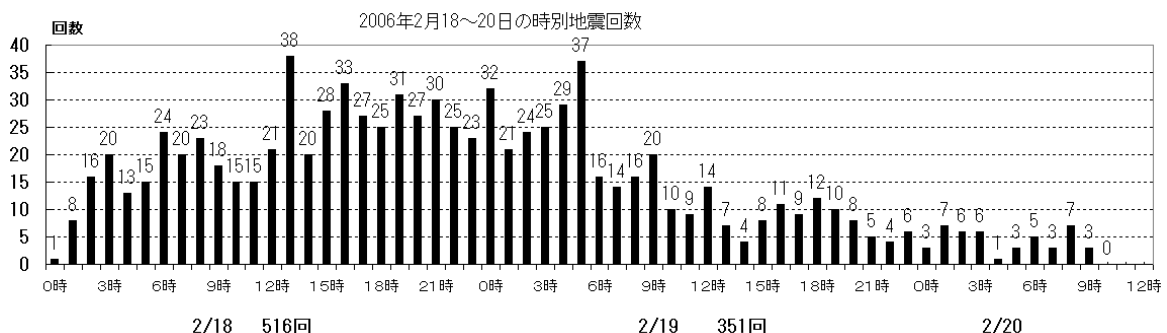


図1 時間別地震回数(2006年2月18日～2月20日)

地震・微動の月回数（B点）

2005～2006年	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
地震回数	32	20	20	40	14	16	18	22	20	44	22	936
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5

※2月の地震回数は20日11時まで

火山性微動の発生状況（2000年1月以降、B点での観測結果）

発生年月日	最大振幅	継続時間
2002年3月29日08時03分	0.54マイクロメートル	3分28秒
2003年1月1日02時07分	0.05マイクロメートル	1分9秒
2006年2月18日09時09分	0.22マイクロメートル	1分9秒
2006年2月18日09時27分	0.38マイクロメートル	38秒
2006年2月19日01時03分	0.07マイクロメートル	40秒
2006年2月19日06時50分	0.05マイクロメートル	1分11秒
2006年2月20日05時49分	0.14マイクロメートル	16分54秒

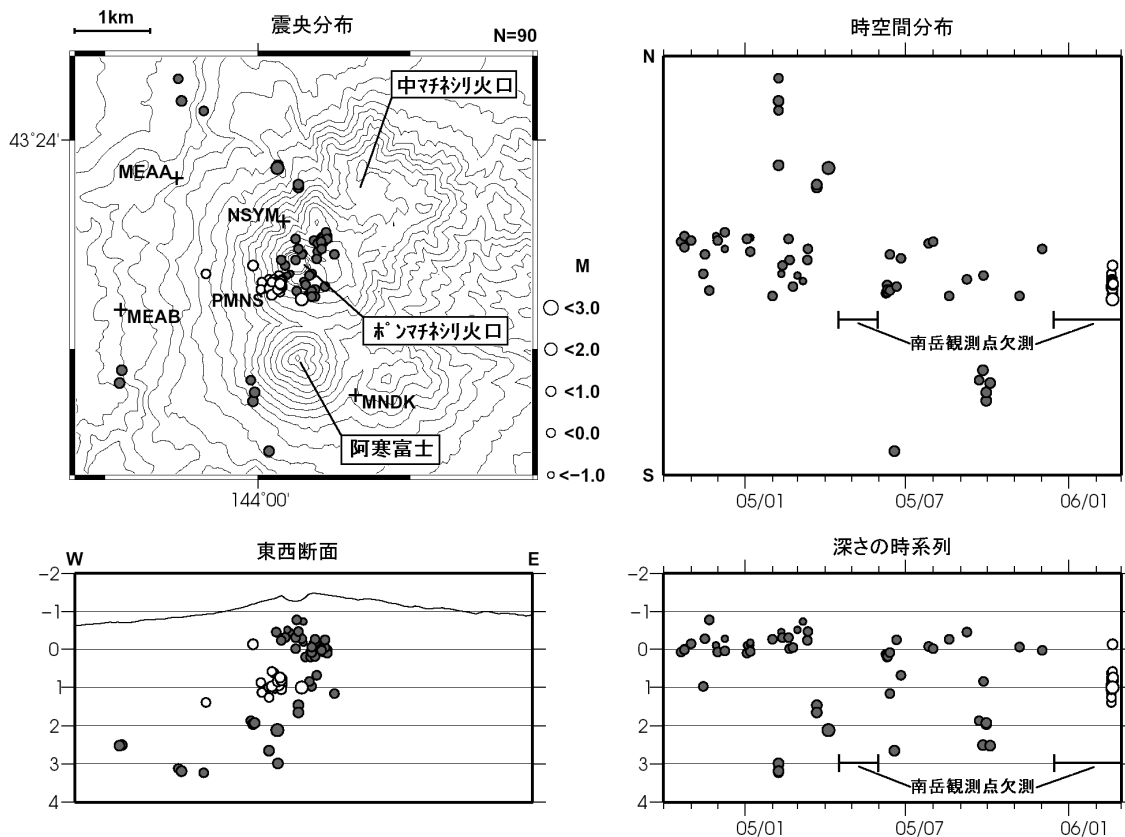


図2 雌阿寒岳の震源分布図（2004年10月7日～2006年2月20日）

（丸印：震源、＋印：地震観測点）

※2005年12月11日以降、南岳観測点障害のため震源決定能力が低下しています。このため、図には精度の悪いものも含めて表示しており、今後変更される場合があります。

○印は2月18日以降の震源を示しています。この期間発生した地震の多くはポンマチネシリ火口直下の海面下1km付近に集中しています。

●印はそれ以前（2004年10月7日～2006年2月17日）の震源を示しています。震源はポンマチネシリ火口直下の海面付近と北西および南西山麓のやや深いところ（海面下約3km）に分布しています。

震源分布図の説明

- ・東西断面：震央分布で表示された範囲を東西面に投影して、地震の垂直分布を示した図です。
- ・時空間分布：震央分布で表示された範囲を時間経過とともに南北面に投影することで、震央の位置がどのように推移しているかを示した図です。
- ・深さの時系列：時間経過とともに震源の深さがどのように推移しているかを示した図です。

3 噴煙活動の状況

気象庁の遠望カメラによる観測では、ポンマチネシリ 96-1 火口、中マチネシリ火口の噴煙は、18日の地震増加前と比べて変化なく、白色の噴煙が火口縁上100メートル以下で推移しています。

4 地殻変動の状況

気象庁のGPSによる連続観測では、地殻変動に特段の変化は認められません。

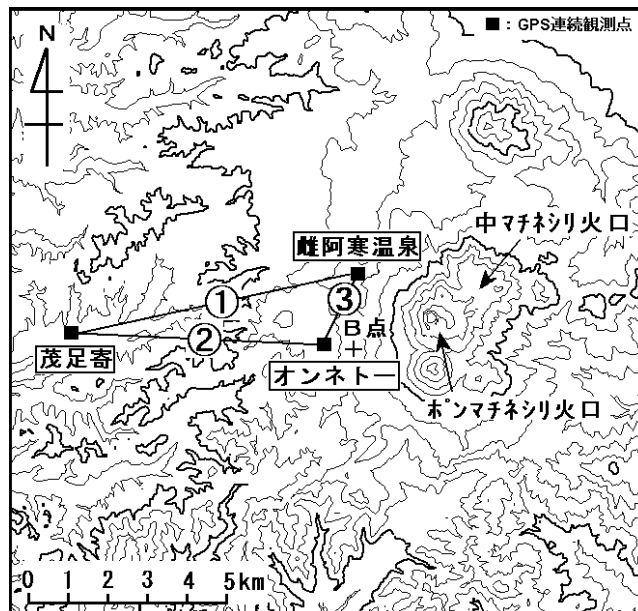
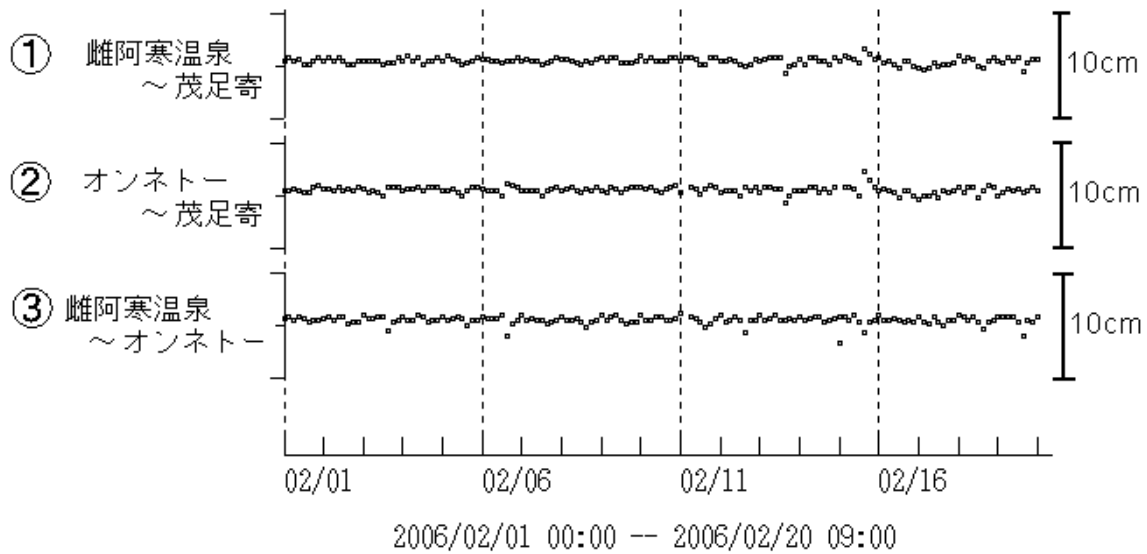


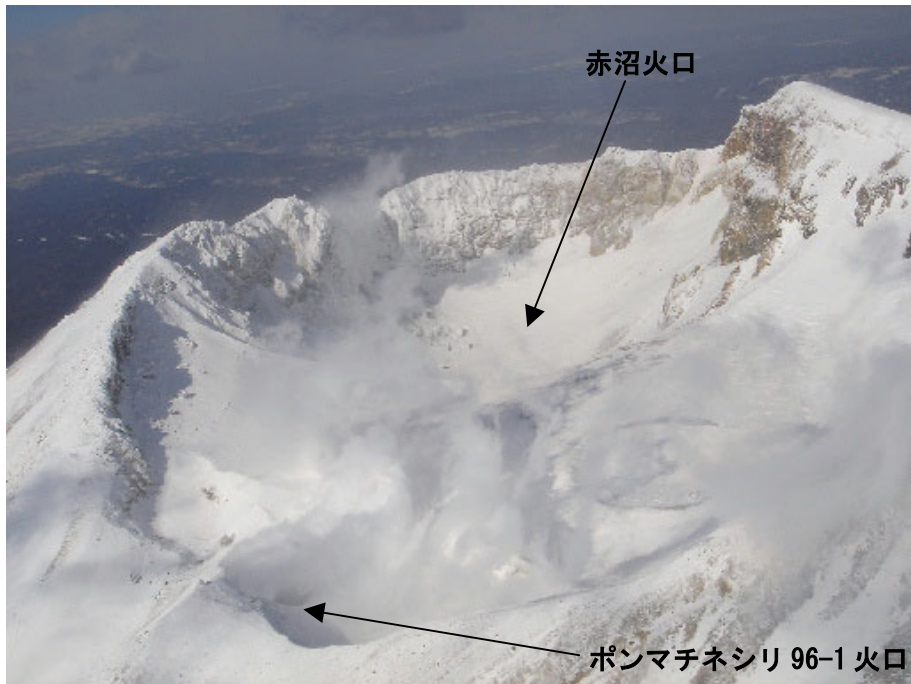
図3 GPS観測結果

※上段の基線長変化の番号は、下段観測点配置図の基線番号に対応しています。

5 上空からの観測結果

19日に北海道の協力を得て上空からの観測を実施しました。

ポンマチネシリ 96-1 火口や中マチネシリ火口の状況に変化はなく、噴煙にも変化は認められませんでした。



南東側上空から撮影したポンマチネシリ火口と赤沼火口



北側から撮影した中マチネシリ火口

○ 火山情報の発表状況

発表時刻	情報番号	内容
2006年2月18日16時05分	火山観測情報第1号	火山性地震の増加、火山性微動の発生
2006年2月19日15時10分	火山観測情報第2号	地震活動の状況、上空からの観測結果

○最近の活動経過

図4に雌阿寒岳の活動経過を示します。地震活動は1987年の地震増加以降、増減を繰り返していますが、2003年11月以降は静穏に経過していました。また、ポンマチネシリ96-1火口の火口温度や噴煙高度は2000年以降低下傾向がみられていました。

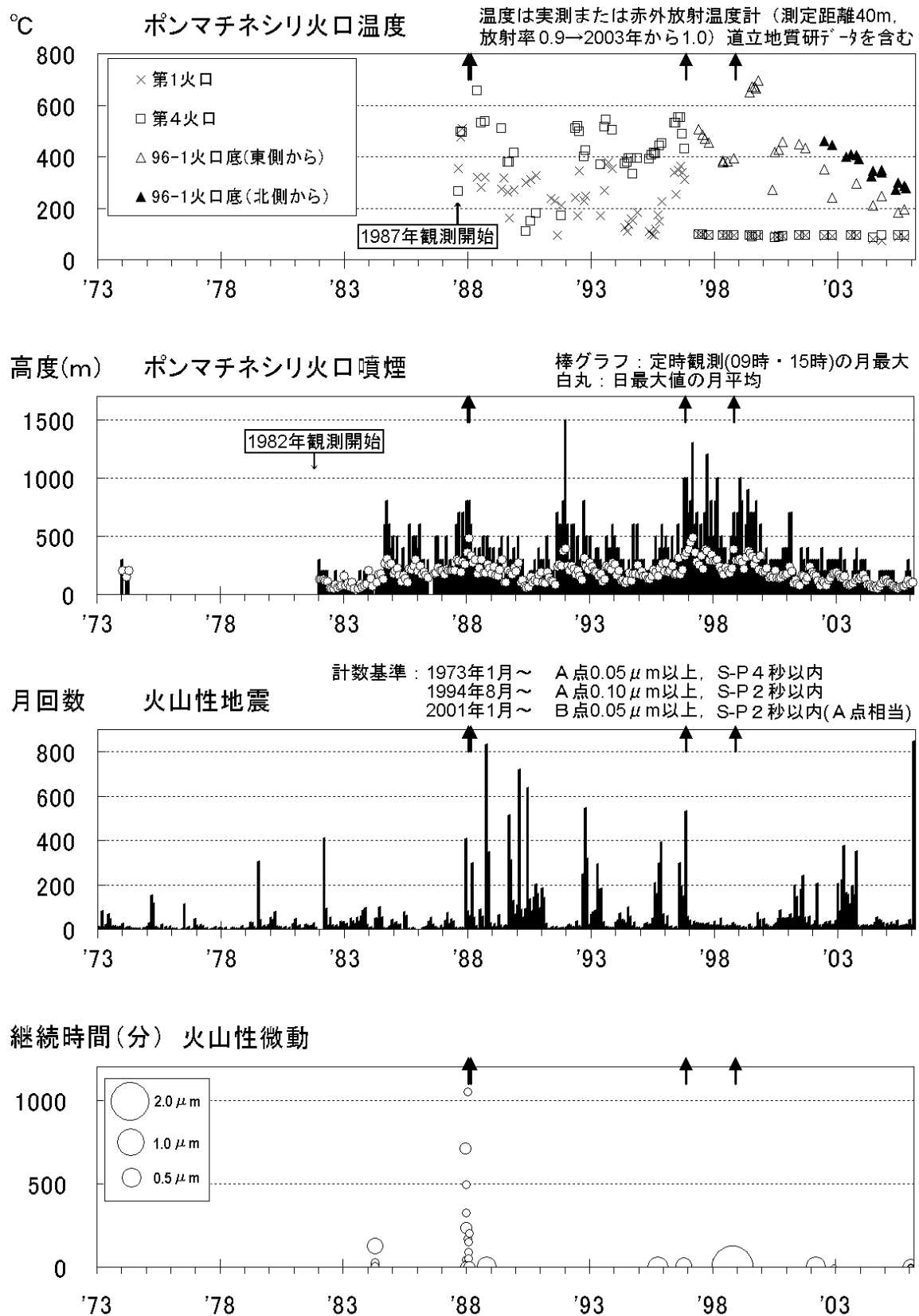
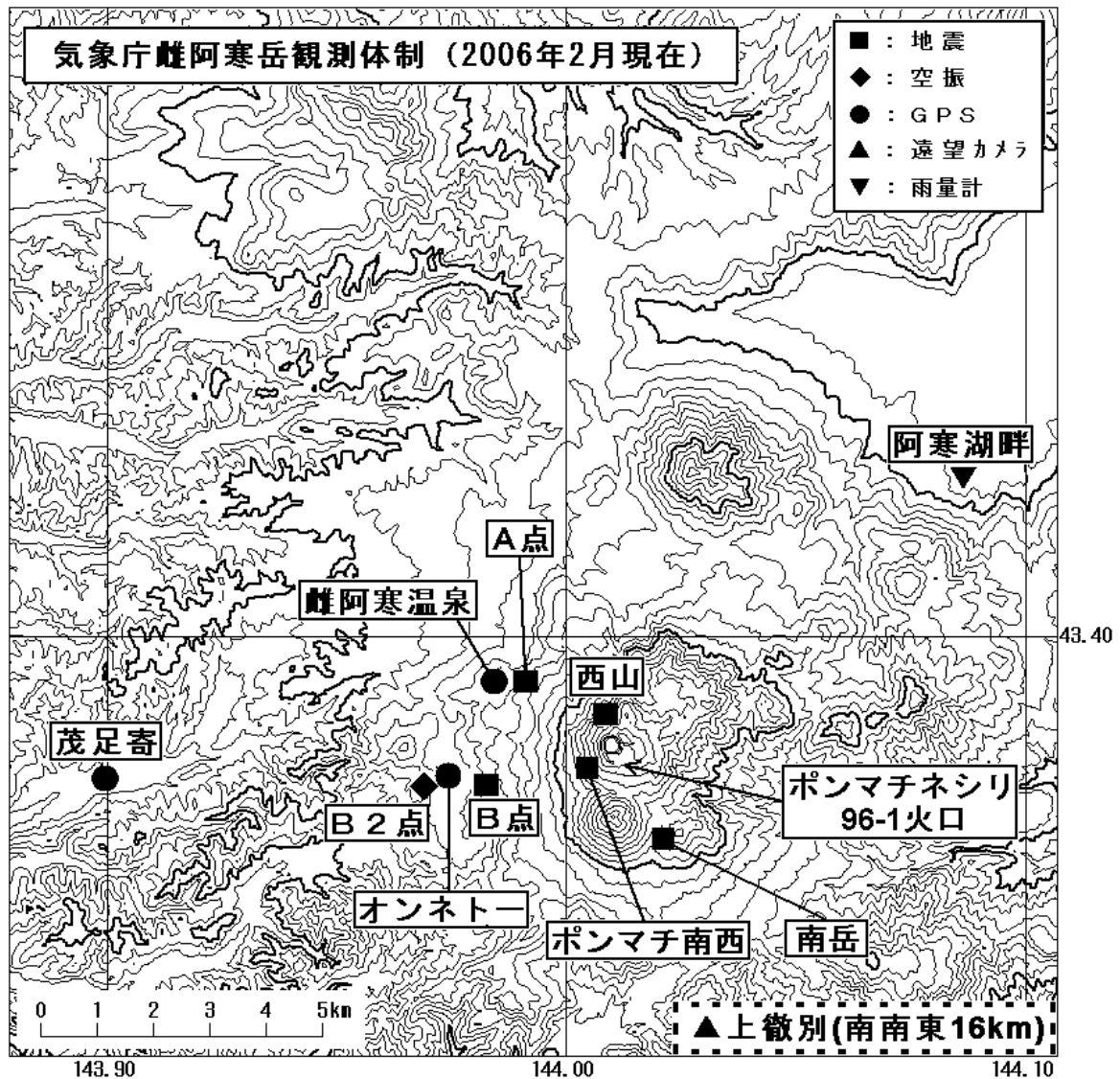


図4 雌阿寒岳の火山活動経過図（1996年1月1日～2006年2月19日）

○観測点情報



観測点一覧表 雌阿寒岳

（位置は世界測地系）

記号	観測機器	地点名	位置			設置高(m)	観測開始年月
			緯度(度分)	経度(度分)	標高(m)		
■	地震計	A点	43 23.7	143 59.2	740	0	1981年1月
		B点	43 22.8	143 58.7	680	-1	2000年11月
		西山	43 23.4	144 00.3	1275	0	2001年11月
		ポンマチ南西	43 22.9	144 00.1	1265	0	2003年6月
		南岳	43 22.2	144 01.0	1096	0	2004年10月
◆	空振計	B2点	43 22.8	143 58.4	636	2	2000年11月
▲	遠望カメラ	上徹別	43 15.7	144 06.7	145	4	1996年4月
●	GPS	オンネトー	43 22.9	143 58.4	636	8	2001年9月
		茂足寄	43 22.9	143 53.7	354	3	2001年9月
		雌阿寒温泉	43 23.7	143 59.0	719	4	2001年9月